イノベーションを体系的に実施する

革新のために
3つの関係を構築し
明確にしておく。

イノベーション（革新）を起こすために、
材料と道具、方向と方法、使命と目的を明確にしておこう。

社会発展、社会問題解決に向けて、
自社の特有の知識・技術を用いて、イノベーションを体系的におこなおう。

自社の卓越性
をとらえる

組織内部
に働く

- 理想を追う　社会で活動している自社の理想形を求める。
- 開発をする　対象：流通システム、社会問題解決、技術、商品 etc.

他企業、他産
業と自社の共
通項を探す

市場、産
業を注視
する

- 類似を探す
- 模倣する

行動を起こす手がかり
とし、自社と社会の
ギャップを測定する。

目標、成果を
具体的な形と
して表す。

結果を社会に表す

社会の問題を
予想し解決に
挑む

社会から
探す

- 変化をとらえる
- 機会を探す

社会問題の解決を事業機会としてとらえる。

イノベーションのための戦略策定を行う

革新は改善ではない。改善は現在の状態の延長線上にある。

革新は適応ではない。適応は現状への同調であり、現在での最適化である。

革新は新たな概念、価値観、行動に基づく。
革新は習慣からの脱出から始まる。

業務は役目として果たさねばならない。しかし、**業務の枠組を取り払い、全体を視て、発展の可能性を探るのは業務を果たす前提である。**現在の業務の成立は、行っている業務から発生したのではなく、全体の状況と自社目的から成立した。

※イノベーションの機会は、ドラッカー著書に「7つの機会」が表されている。ネットで検索すると見つけられる。

copyright SeedWin